

会越国境 広谷川御神楽沢～奥壁本谷スラブ

小暮

【日時】2008年10月3日(金)～4日(土)

【メンバー】小暮、笹川

御神楽岳の御神楽沢は、私がトマの風に入会した年に手嶋さんがリーダーで連れて行ってもらった広谷川ム沢の右俣ともいうべき沢で、百名谷の一つにも数えられる憧れの沢であった。ム沢はいやらしいザイルを出すような高巻きの困難さ、険しくて豪快な谷、雨で増水して体育座りでのビヴァーク体験といった強烈な体験で忘れられない山行だった。御神楽沢は同じ流域の険しさを持ち、最後の奥壁はスケールの大きいスラブ登りができるとあって、そのときからいつか登ろうと心に決めていた沢であった。

登山道を湯沢出合まで進み、更に沢の左岸に続く踏み跡をしばらく辿って入渓する。最初に出てきた2mの滝が苔っぽくて、今回選んだ足回りのアクアステルスソールの沢靴が滑りまくり。以前は何も気にせず登った2mの滝がなかなか登れず、タワシとバイルを駆使してようやく突破。先が思いやられる。楽しくゴルジュを過ぎると河原状となる。正面にム沢の大滝が見え、水晶尾根を過ぎたところが御神楽沢出合いだ。

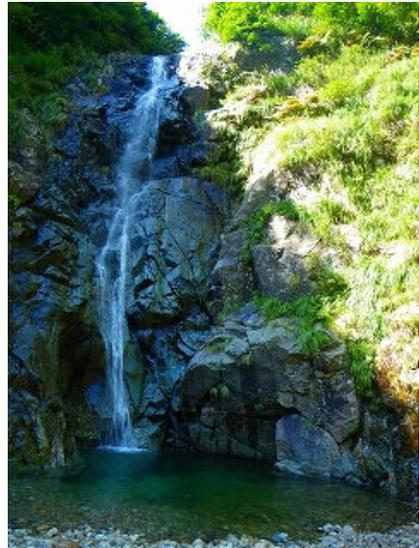
御神楽沢に入っただけで、10mのトロが出てくる。寒いので浸かりたくないが巻くのは時間が掛かるので、腰～胸程度水に浸かって進む。昼間になってやっと暖かくなって来たとはいえ本当は浸かりたくなかった。トロを過ぎると御神楽滝 30m。なかなかのスケールだ。直登は厳しそうなので、踏み跡の残る右側のルンゼを登り落ち口に向けてトラバースする。念のためトラバース部分でザイルを出した。滝上にはうまくルートを見つけて懸垂せずに降りることができた。

その先はゴルジュ帯となり、残置スリングでA1したり、全身のバランスをボルダー的に使うような滝が連続する。シャワークライミングとなる滝が結構あり、下半身は半ズボンのウェットを履いてきて本当に良かった。大岩のところは巻けば良いのだが、せっかく持ってきたアブミを使って正面突破してみる。

大岩の先は周囲が開けDルンゼ、Cルンゼが出合う。本流には30mの大滝が掛かっている。まずは正面右のスラブ状にザイルを出して取り付くがホールドが乏しく

ちょっと危ないので断念してクライムダウンする。気を取り直して左岸から巻くがちよっと悪くてかなり巻き上がってしまい、最後は懸垂下降して沢に戻る。下山してから他の記録を見ると水流左をザイルを出して登っていけるらしい。取り付く前に良く観察しなければと反省。

その先のゴルジュを進んでいくと、奥に釜を持った2段の滝があり直登はまず不可能だろう。滝のボロボロの左壁には腐ったスリングの掛かった残置ピンがあるが、落ち口への下降が嫌らしい。左岸の草付きを巻くことにして、取り付くが嫌らしいので少し上がったところで後続にザイルを垂らし、更に1ピッチの垂直の灌木木登りとなる。そこから懸垂下降しようとザイルをセットして少し



御神楽滝 30m

下がると、降りた先にも 10m クラスの直瀑とその先も 3 つほど滝が連瀑となっているのが見えた。もう一つ上の滝上に懸垂下降してみたところで、その先の滝が登れるかどうかが上から見ただけでは分からない。万が一登り返しとなった場合は大変な時間のロスとなってしまう。既に 16 時近く、このままではゴルジュの中で日が暮れてしまう。ヤバイ。懸垂下降はやめて草付きを巻くことにする。幸い灌木もあり傾斜も緩んできているので、ノーザイルでしょぼい草を掴んでトラバースしていく。灌木が少ないので、案外時間はかからない。巻き終わると水晶沢が合わり、予定の幕場である奥壁基部に着いた。周囲はスラブに囲まれた素晴らしいロケーションだ。

翌朝、東面のスラブ群が朝焼けに染まる。正面ルンゼ、本谷ルンゼが良くみえる。豪快そのものだ。昨日は到着が遅くてのんびり眺められなかったのが、朝食を食べながらぐるりと囲む壁を見渡すと何ともいえない気分である。これから始まる登攀に身が引き締まる思いである。

出発して直ぐに谷が深くなるが、幸い心配していた雪渓は残っておらず助かった。大岩の CS を二つほど越えると、急な滝で合わさる正面ルンゼを過ぎ、本谷スラブの基部に着く。早速ザイルを出してツルベで上り始める。下部は、部分的にⅣ級程である。残置ピンはほとんど無いので、ハーケンを打ってランニングを取って登り、ピレイ支点はもっぱらハーケン 2 本で取るのでそれなりに時間はかかる。とにかくスケールが大きく豪快だが、あくまでも難易度はⅡ～Ⅳ級なので慎重に登れば大丈夫だ。7 ピッチほどロープを出したところで、いったん傾斜が落ちて沢状となったのでロープを解く。しかしその上にもスラブが出てくるが、Ⅱ～Ⅲ級なのでそのままフリークライミングで詰め上げるとほとんど藪漕ぎも無く登山道に飛び出した。

登山道から御神楽岳山頂を往復し、素晴らしい登攀の余韻に浸りながら奥壁を何度も見返りながら下山する。栄太郎新道は道が悪く少々スリリングであるが湯沢の岩場の眺めも良く楽しい下山道である。豪快なスラブ登攀が出来、行きたいとずっと思っていた沢に登攀できた充実感でいっぱいである。



奥壁と幕場



本谷スラブの登攀

【行程】 10/3 登山口(8:05)～湯沢出合(9:00)～御神楽沢出合(10:55/11:05)新高ルンゼ出合(12:40/13:05)～奥壁基部 BC(17:00)

10/4 BC(7:10)～本谷ルンゼ取付(8:00)～登攀終了(11:40)～登山道(12:35)～御神楽岳山頂(12:50)～湯沢ノ頭(14:00)～p.953(14:35/55)～湯沢出合(16:20/30)～登山口(17:25)

【地図】御神楽岳 【グレード】4 級



広谷川御神楽沢～奥壁本谷スラブ
2008年10月3日(金)～4日(土)

